



2016展望

道路舗装

昨年は比較的順調な1年だった。利益に対する社員の意識が着実に高まっており、採算重視の受

大成ロテック

藪田 英俊社長

持続的発展に必要な素地形成

注活動が徹底されてい（15～17年度）では、規模の拡大を志向せず、社更新し生産性を高める投資が必要だ。老朽設備を9月期は増収増益を達成会に必要とされる企業と資を計画的に実施する。できた。原油価格の下落して着実に成長すること。2020年東京五輪後を受けて合材の製造コストを低減していることも、高収益の不透明な事業環境に備え、今後の収益力の向の体質への転換が基本方針。え、持続的発展を維持す上を基本に経営のかじ取業の両輪だ。工事は利益を稼ぐ力が付いてきた減っていく中で事業量を維持するに、舗装以外

の分野も切り開いていか社員の与えることができなければならぬ。このため情報を一元化し、事業創出」に取り組み。昨年業推進部」を15年10月に7～11月に九つのモデル新設した。一般土木や維持保全補修など新しい分野の可能性を探り、事業の推進を図っていく。え、16年4月からすべての集つ、働きがいの現場に適用する予定ある会社を実現していきだ。ゆとり創出の実現にたい。建設業の「新3K」向け、全国展開を図って（給料・休日・希望）をいきたいと考えている。